小児医療センター

１．スタッフ

センター長（兼）：教授　奥山　宏臣

副センター長（兼）：准教授　１名、看護師長　２名

２．診療内容

当センターは、平成 20 年 2 月より、内科系と外科系を含むすべての診療科の小児患者を対象に発足し、11 年目を迎えた。小児及び成育医療のための総合診療部門として 88 床（東 48 床、西 40 床）を運用し、安全で質の高い高度な医療の提供に取り組んでいる。

３．診療体制

東 6 階病棟が内科系、西 6 階病棟が外科系入院を基本方針としており、すべての診療科と連携して運用している。東西 8 床ずつ（総室各 2 室）で、保護者の付き添いがない患児の入院診療を行っている。また、高度集中治療管理を要する患児が高度救命救急センターや集中治療部で治療を受けた後の回復期の継続医療を行っている。必要に応じて保健医療福祉ネットワーク部と連携し退院支援を行っている。さらに、疼痛など緩和ケアに関しても緩和医療学講座と連携して適切な緩和医療を提供している。

４．診療実績

当センターが発足して以来、小児内科系、外科系ともに入院患者数が増加している。小児科、小児外科、整形外科、眼科、脳神経外科、心臓血管外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、皮膚科の小児入院患者の受け入れを行っている。豊能広域こども急病センターの二次後送病床としての役割も果たしている。

平成 30 年度の実績は以下のとおりである。

(1) 病床稼働率：東 6 階 78.92%，西 6 階 75.12%

(2) 平均在院日数：東 6 階 12.0 日、西 6 階 9.7 日

(3) 診療単価 ：東 6 階 90,664 円、西 6 階 104,359 円

(4) 医療費率：東 6 階 44.35%、西 6 階 22.99%

５．入院環境の改善と地域社会とのつながり

昨年度に引き続き、ボランティア活動やクリニクラウンの訪問などのイベントが行われた。6 月には最大震度 6 弱の大阪北部地震に見舞われたが、幸い入院中の患者には怪我もなく、入院診療体制は安全に維持された。7 月には吹田市に本拠地をおくガンバ大阪から遠藤保仁選手と林瑞輝選手が小児医療センターを訪れて、ウォールペイント完成披露会に出席し、病棟の子ども達と触れ合った。8 月には ANA グループの航空教室、9 月には腹話術、2019 年 3 月には「一般社団法人　星つむぎの村」による院内プラネタリウムとワークショップ工作イベント「星座カードづくり」が行なわれた。ガンバ大阪からご寄付を頂き、入院している子ども達が検査などに向かう病棟の通路を可愛らしい絵でペイントして、不安の軽減に取り組んでいる。クリスマスには今年度も OSAKA あかるクラブからプレゼントを贈呈して頂き、温かい思いやりのもとで子ども達は闘病しながらも笑顔で過ごしている。

６．多職種との連携

当センターには、院内学級として大阪府刀根山支援学校の分教室がある。小学部、中学部あわせて約 20 名の児童が学習している。在籍児童は年々増加しており、入院して治療を受けながら通常教育が受けられる。またベッドサイド授業もあり児童の状態に合わせた授業を受けることができる。さらに入院中から地元校との連携を密におこない、退院時には医療スタッフ、地元校、院内学級教師がカンファレンスを行って退院後の学習もスムーズに行うことができている。

病棟薬剤師により薬剤の管理、輸液製剤の調剤、服薬指導が行われている。小児では内服困難な児が多く、適切な服薬は病状の改善につながり、患児のストレス軽減、QOL 改善にもつながっている。小児医療センターは重症慢性疾患の入院が多く、多種類の薬剤を使用する症例が多い。病棟薬剤師より薬剤・治療、起こりうる有害事象について説明を受けることで理解が深

まり、患児と家族から好評である。病院保育士によりプレイルームにおける集団保育や「抱っこで絵本の会」などが定期的に行われており、貴重な楽しみとなっている。

チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）による患児と家族に対する疾患・処置の受容支援活動や年齢の高いいわゆる思春期・若年成人(AYA)のピアサポート支援がなされ、患児と家族のストレス軽減、QOL 改善につながると共に、スムーズな治療の一助となっている。地域医療機関との連携による退院支援、医療福祉相談により病診連携がスムーズに行われ、円滑な治療の継続ができ、患児の QOL の向上、退院後の生活や診療の不安、経済的不安等の家族の不安解消につながっている。

このように、当センターは医療スタッフのみならず、多職種間の連携も充実しており、患児、家族に多角的な支援を提供している。

また、当センターは地域社会とのつながりに支えられながら、子どもの全人的医療に取り組んでいる。

７．教育・研修の充実

小児診療に関係する多方面の分野から専門家を講師に招き、医療従事者を対象とした小児医療センターセミナーを定期的に開催している。セミナーの内容は小児医療センターとしての機能から、内科的・外科的疾患や緩和ケア、退院支援など多岐にわたっており、毎回多数の参加者がある。また、病棟における小児心肺蘇生と高度救命処置研修を定期的に開催し、医療スタッフの技術の維持向上に努めている。乳児の心肺蘇生テキストを平成 31 年 1 月に改定し、新スタッフに配布して、スタッフ全員の意識と医療技術の向上に努めている。

８．施設認定

小児に関する以下の施設認定を受けている。

- 日本小児科学会研修支援施設
- 小児血液・がん学会専門医研修施設
- 日本血液学会研修施設
- 小児神経専門医研修施設
- 日本周産期・新生児学会専門医研修基幹施設
- 小児循環器専門医修練施設
- 心臓移植認定施設（11 歳未満移植可能施設）
- 臨床遺伝専門医研修施設
- 日本内分泌学会認定教育施設
- 日本外科学会認定施設
- 日本小児外科学会認定施設
- 日本形成外科学会認定施設
- 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科
- 脳死肝移植認定施設
- 脳死小腸移植認定施設